



活力ある超高齢社会を共創する グローバル・リーダー養成プログラム

GLAFS: Global Leadership initiative for an Age-Friendly Society

東京大学

高齢社会総合研究機構、【工学系研究科】社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻、機械工学専攻、精密工学専攻、化学システム工学専攻、先端学際工学専攻 【人文社会系研究科】社会文化研究専攻 【教育学研究科】総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻 【法学政治学研究科】総合法政専攻 【総合文化研究科】広域科学専攻 【農学生命科学研究科】生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物科学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻 【医学系研究科】社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、健康科学・看護学専攻 【新領域創成科学研究科】先端エネルギー工学専攻、メディカルゲノム専攻、人間環境学専攻、社会文化環境学専攻 【情報理工学系研究科】知能機械情報学専攻

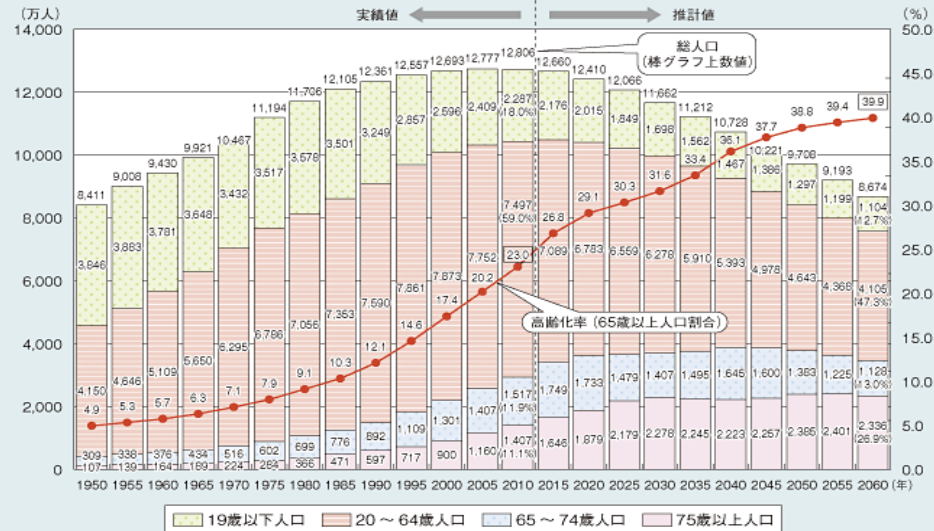
<<http://www.glafs.u-tokyo.ac.jp>>

1. 本プログラムの背景と目的

1.1 超高齢社会の到来

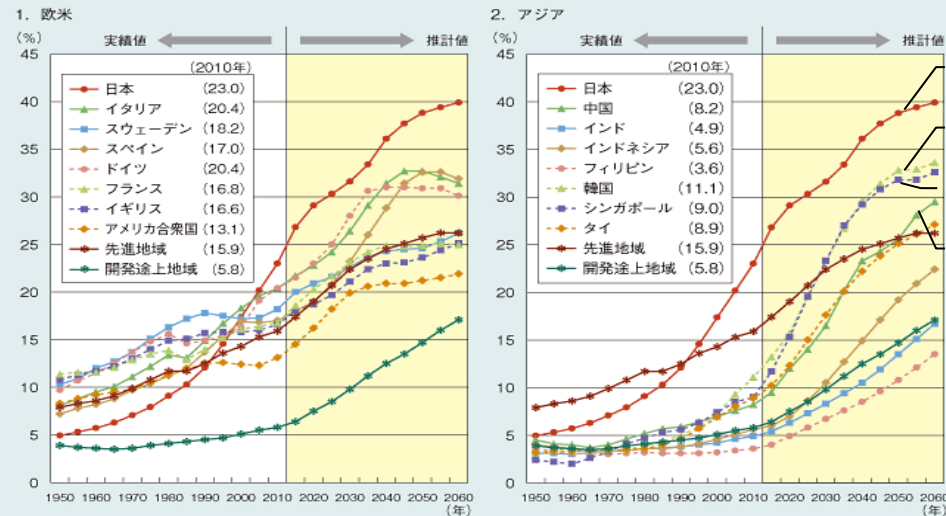
- 日本は世界一の高齢社会：**
 2030年、3人に1人が65歳以上、
 2060年の高齢者比率は約40%
 に到達。
- アジア各国も急速に高齢化：**
 韓国・シンガポールは2040年、
 中国も2060年には高齢者人口が
 1/3に。
- 日本は高齢化最先進国：**
 超高齢社会は世界の歴史に先
 例のない未知の領域。この分野
 の政策を開拓し世界をリードす
 る責務。

図1-1-4-1) 高齢化の推移と将来推計



資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果
 (注) 1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む

図1-1-13 世界の高齢化率の推移



資料：UN, World Population Prospects : The 2010 Revision
 ただし日本は、2010年までは総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。
 (注) 先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。
 開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。

- 日本
- 韓国
- シンガポール
- 中国

1.2 課題：活力ある超高齢社会＝健康長寿社会を創ること

- ① 高齢者の健康自立期間を延ばし、社会参加を促し、高齢者も社会の支え手とする、社会システムを実現すること。
 - ・ 要介護期間を最小化・自立的期間を最長化すること：予防医学・介護予防・健康づくり活動・食の問題
 - ・ 引きこもりを防ぎ社会参加を促すことが健康寿命を延ばす鍵：コミュニティ活動・いきがい就労・社会参加
- ② 高齢者の活動レベルが低下して介助が必要になった場合でも、施設に收容するのではなく、住みなれた地域社会の中で、できるだけ自立的に、活力を維持しながら暮らせる、社会システムを実現すること。
 - ・ 地域包括ケア：在宅介護・在宅医療のシステム
 - ・ 心身が多少弱っても地域で暮らせる生活環境（すまい/まちづくり・生活支援システム）

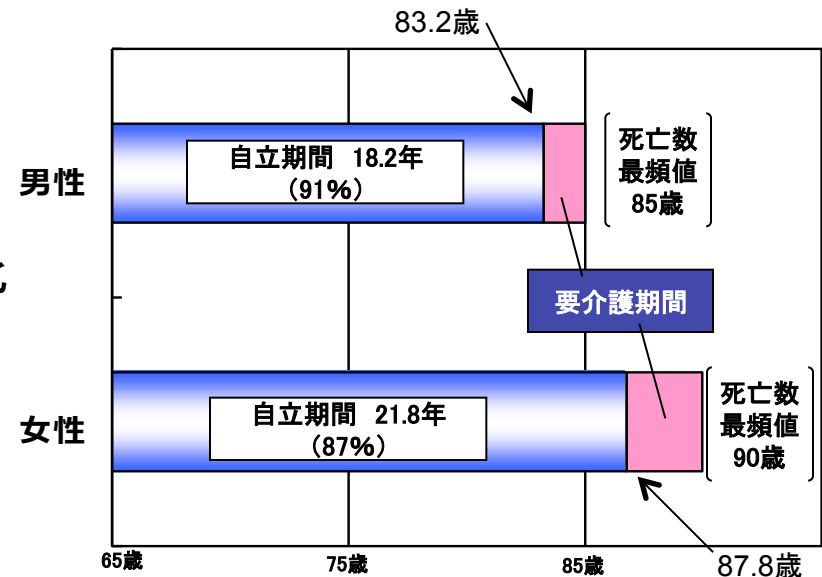
従来型のケア体制の整備は量的に困難。要介護期間を最小化し健康自立期間を最長化し、高齢者の活力を積極活用する社会を構築することが最優先の課題。

○人生90-100年時代の到来／高齢者のアクティブ化

10年前(1992年)と今(2002年)の高齢者の通常歩行速度を比べてみると、男女ともに11歳若返っている！
(ex.今の75歳は昔の64歳！)

○高齢者は孤立化し家に引きこもると虚弱化してしまう

○高齢者が外に出て体を動かし人と交流し社会参加できる
地域社会の環境をつくることが健康寿命を延ばす鍵



※死亡時年齢最頻値(厚生労働省「完全生命表(2005年)」)－65歳より算出

資料：平成12年版厚生白書(「保健医療福祉に関する地域指標の総合的開発と応用に関する研究」；平成9年度厚生科研費補助研究事業)をもとに作成

1.3 本プログラムの目標

日本・世界各地の現場で、多様な分野の専門家・市民と共に「活力ある超高齢社会を共創する」取組を主導する、実践的課題解決能力を備えた、高齢社会問題の高度専門家を育成すること。

なぜならば…

- 高齢化最先進国の日本は、高齢化率が1/3になる2030年代までに、**世界に先駆け、活力ある超高齢社会を構築する必要**
 - ・ しかも、日本では、現に、被災地の復興等において「高齢者標準」の地域社会を構築する取り組みを遂行中(東京大学・高齢社会総合研究機構(IOG)等も大槌町等で現に取組中)
- 活力ある超高齢社会を実現するためには**社会システム全体を総合的に組み替える必要** → **分野横断的なアプローチが必要**
 - ・ 医療・介護等のケアサポートシステム、生活サポートシステム、食生活スタイルやライフスタイル、ワーク・ライフ・バランス、家族と子育てのあり方、すまいと地域社会の居住環境・社会環境、公共交通など都市的インフラ、社会保障制度を含む制度的インフラ、等々を抜本的に改善・再編成し、社会システム全体を総合的に組み替える必要
- **先例のない未知の世界を開拓する必要性**
 - ・ 分野横断的俯瞰力と専門的創造力、実践的課題解決能力を兼ね備えた人材(**チームプレイのできるスペシャリスト**)が**分野横断的専門家チーム**を組んで取り組む必要
 - ・ こうした高度な能力を備えた人材養成には、最短でも**修士・博士一貫の5年間の教育期間が必要**
 - ・ この若き**スペシャリスト**が、将来的には、**分野横断的専門家チームを主導するディレクター**として、さらに、**社会全体のリデザインを主導する世界的リーダー**に進化する必要

2. 育成すべき人材像と カリキュラムの特色

2.1 育成すべき人材像とカリキュラムの構成

【育成すべき人材像】 活力ある超高齢社会を共創する能力、すなわち、高齢社会問題に関する俯瞰的総合的知識と、特定分野における専門的研究能力に加え、分野横断的専門家チームを率いて課題解決に取り組む能力を備えた、博士レベルの人材（T+型人材）。

①俯瞰的総合的知識

■横断的共通講義群：
高齢社会問題に関する俯瞰的総合的知識を修得

高齢者の真のニーズを理解

②専門的研究能力

■博士研究：
高齢社会問題に関する独創的で有用性の高い専門的学術研究（博士研究）を専攻において遂行。
・コアセミナーによる分野横断的指導体制・学際的視野の確保

高齢社会の真のニーズに有効に応える独創的画期的な研究

③実践的課題解決能力

■フィールド演習：
・コミュニティ・アクション演習
・ケアシステム実習
・インターンシップ型共同研究
分野横断的チームにより現実の課題解決に取り組む演習を通じて、実践的課題解決能力を育成

実社会のリアリティに向き合い、システムを共創・実装・運営する手法・技術を実践し体感的に理解し修得

グローバルな共感力・活動力を涵養

④グローバルなリーダーシップの育成：

・海外短期留学
・グローバル演習（G演習）
・国際共同ワークショップ/スタジオ
・バイリンガル授業
・外国人研究者特別講義・セミナー

2.2 育成する人材とキャリアパスのモデル

職能タイプ	学生時代(博士研究)	スペシャリスト時代(～40歳)	ディレクター時代(～55歳)
ジェロントロジー・サイエンティスト	ゲノム解析・ビッグデータ分析等により、高齢者の身体的特性の民族的相違を把握した上で「 アジア人の健康長寿に適した食生活のスタイル 」を明らかにする	グローバル食品企業 の研究開発部門において、アジア人向けの新しいサプリメントや、高齢者向食品を研究開発	スピンアウトして、 食を通じた健康づくりに関する国際的ベンチャー企業 を創設
ライフサポートエンジニア	産学協同研究を通じてマルチセンシングと人工知能を応用した自動緊急事態検知・通報機能を備えた「 安全安心インテリジェント住宅 」の基本技術を開発	ハウジング・メーカー の研究開発部門に入社し、「安全安心インテリジェント住宅」システムを実用化	同企業の研究開発部門の ディレクター として、次世代の健康長寿住宅の体系的包括的な研究開発を主導
ケアシステム・ディレクター	地域におけるサポートセンターの試行実験を踏まえ、実効性のある「 要介護以前の高齢者サポートシステム 」のプロトタイプを開発	大手介護事業者 の企画部門において、某県における多目的コミュニティサポートセンターの展開を企画・推進	地域における健康づくりの経験を踏まえ、 大学 に戻って健康づくりのシステムを深化させる教育研究に従事
ソーシャル・ビジネス・コーディネーター	被災地復興におけるシニア層によるコミュニティ・ビジネス起業を支援する活動経験を踏まえ、「 コミュニティ活動のファシリテーション 」の新しい方法論を体系化	大手ICT企業 の下で、コミュニティ・ビジネス起業をサポートするソーシャル・ネットワーク・サービス子会社を設立・運営	スピンアウトして、コミュニティ活動コーディネーターを育成し、地域の コミュニティ活動を支援するインターメディアトリNPO を創設
まちづくりプランナー/デザイナー	連携地域における社会実験を通じ、高齢者を引きこもらせずコミュニティにおける交流活動に誘い出す「 人の集うコミュニティスペースの整備方式 」を体系化	自治体 のまちづくり部門の職員として、同市のまちづくりの企画調整推進にあたる	公務員を辞職し、独立の「 まちづくりコンサルタント 」を開業。学界・協会のオピニオンリーダーとして活躍。55歳で某市の 市長 となる
制度/政策デザイナー	各国の高齢者関係法の現状を調査し、「 高齢者法の国際比較研究 」を博士論文としてまとめる	国家公務員 (厚労省)として高齢者基本法および関連法の創設・改正を担当。その後、 国際機関 に出向	公務員を辞職し、高齢者の権利保護を推進するための政策シンクタンクを設立。その後、 政治家 として国政に貢献

グローバル・リーダーのモデル

高齢者のニーズに応える新会社を起業し世界的企業へと展開。

ex. **高島宏平氏**：
(オイシックス社長)

超高齢社会向けの市民活動を支援する国際的支援団体を組織。

ex. **ムハマド・ユヌス氏**：
(マイクロクレジット創始者・ノーベル平和賞)

世界各国の都市において超高齢社会対応の都市づくり・まちづくりの計画・デザインを指導。

ex. **ヤン・ゲール氏**：
(都市デザイナー)
ジャイメ・レルネル氏：
(元クリチバ市長)

国際機関において世界の高齢社会政策の展開を主導

ex. **緒方貞子氏**
狩野恵美氏
(WHOテクニカルオフィサー)

法学政治学系
研究科

教育学
研究科

総合文化
研究科

人文社会系
研究科

工学系
研究科

農学生命科学
研究科

高齢社会総合研究機構

医学系
研究科

9研究科・28専攻のプログラム担当教員・協力教員

新領域創成
科学研究科

- ・ジェロントロジー共通講義
- ・各専門分野の博士研究
- ・分野横断的研究指導体制

情報理工学系
研究科

活力ある超高齢
社会を共創する
グローバル・リー
ダー養成プログラ
ム

地方自治体連携活動
柏市、横浜市、川崎市、福井県、釜石
市、大槌町 他

地域連携型フィールド演習

- 例)
- ・柏市豊四季台地域まちづくり
 - 生きがい就労プロジェクト
 - 多職種連携型地域包括ケアシステム
 - 交流コミュニティスペースづくり
 - ・被災地における復興まちづくり

プログラム担当者
交換留学生受入

国際連携

ミシガン大、オックスフォード大
との3極拠点ネットワーク
シンガポール大、ソウル大、ミ
ズーリ大、KTH、UCLA

海外短期留学

プログラム担当者
インストラクター招聘

産学連携活動(ジェロネット他)

- 自動車・機械メーカー 6社
- 電機・精密機械メーカー 8社
- 食品・生活用品・ヘルスケアメーカー 15社
- 流通・外食・総合商社 2社
- 建築・不動産・住空間 5社
- IT・情報通信 3社
- 金融 3社
- 医療・福祉機関 2社
- マーケティング・コンサルタント 10社
- その他 8社

海外短期留学制度

国際共同スタジオ、国際共同WSなど

インターンシップ型共同研究

プログラムの概要

9研究科・28専攻・1機構の有機的連携体制

高齢社会総合研究機構 【工】社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻、機械工学専攻、精密工学専攻、化学システム工学専攻、先端学際工学専攻 【人社】社会文化研究専攻 【教育】総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻 【法】綜合法政専攻 【総合文化】広域科学専攻 【農】生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻 【医】社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、健康科学・看護学専攻 【新領域】先端エネルギー工学専攻、メディカルゲノム専攻、人間環境学専攻、社会文化環境学専攻 【情報】知能機械情報学専攻

質保証：評価のシステム

□QE1: 学業成績の他、F演習とコアセミナーを通じて適性を評価

□QE2: 修士研究の発表討論を通じた専門的研究能力の評価・研究室選択の助言

□QE3: 研究計画の評価による博論着手資格審査

□博論審査: 学外審査員を含む公開審査会

カリキュラムの特色

□F演習: 3タイプのフィールド演習: コミュニティアクション演習/ケアシステム実習/インターンシップ型共同研究

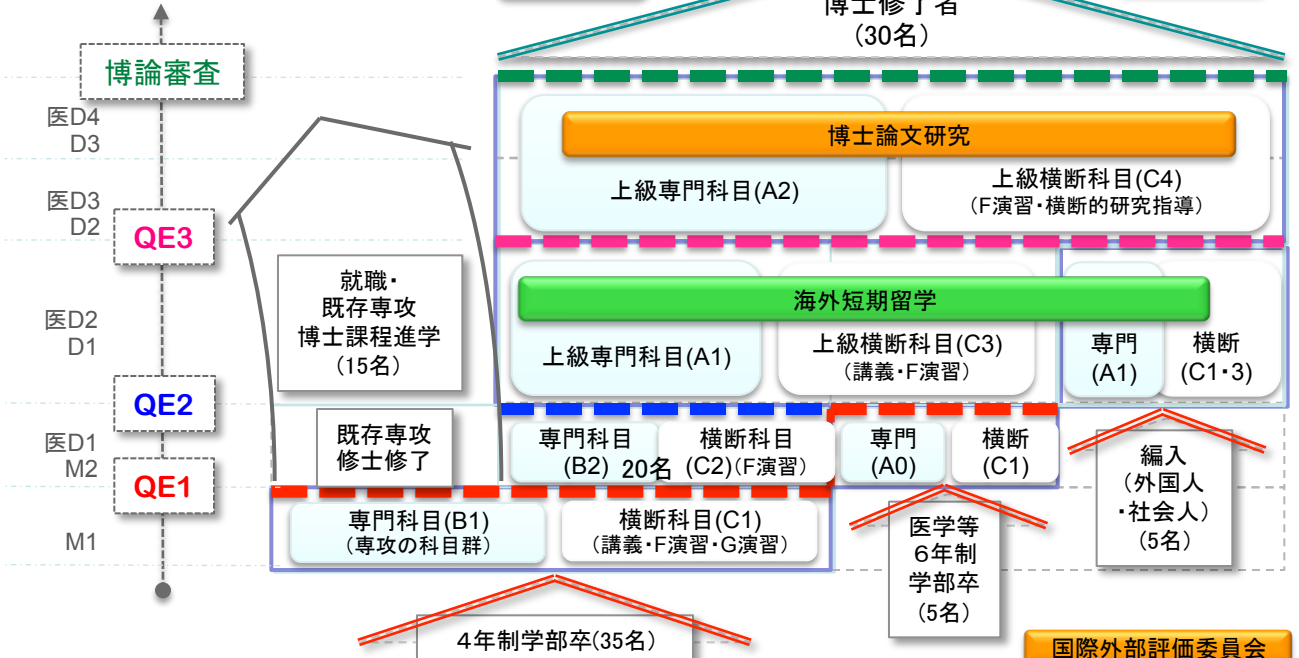
□G演習: グローバル演習「英語によるコミュニケーションとプレゼンテーション」
「国際共同ワークショップ・スタジオ」

□Cセミナー: 1年次～5年次まで横断科目として継続して行われる横断型コアセミナーを通じた研究指導

参加学生はプログラムの全面的サポートに支えられ所属専攻において高齢社会問題解決に資する博士研究に邁進

活力ある超高齢社会を日本・世界で共創するグローバル・リーダーを、東京大学・高齢社会総合研究機構を中心に東京大学の9研究科30専攻等が総力をあげて養成

各専攻の博士の学位に付記:
「高齢社会総合研究プログラム修了」



多様なキャリアパス
超高齢社会を共創する取組を主導するリーダーとして活躍



運営委員会 カリキュラム委員会 学生評価指導会議 連携推進委員会

・プログラム担当教員
・プログラム協力教員
・インストラクター/メンター

・F演習フィールドの提供
・演習インストラクターの派遣
・インターンシップ型共同研究

・短期派遣留学生受入
・海外教員による指導
・国際外部評価委員会

分野横断的教員組織
・東京大学・高齢社会総合研究機構を中心に、東京大学大学院の9研究科・30専攻等が参加

産官学民連携体制
・ジェロネット参加企業(約60社)
・HIP参加企業(12社)
・自治体等: 柏市・横浜市・川崎市・福井県・釜石市・大槌町(他)

海外連携大学
ミシガン大、オックスフォード大、ミズーリ大、シンガポール大、ソウル大(他)

3.プログラムの実施運営体制

分野横断的なプログラム担当教員群



プログラム責任者

原田 昇

■ 所属：副学長・産学連携本部長・大学院工学系研究科・教授
■ 専門：都市交通計画 交通まちづくり
■ HP：http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/member/prof-harata

Program Director

Noboru Harata

■ Vice President, Director General of University Corporate Relations, Professor of Graduate School of Engineering
■ Urban Transport Planning, Transport-based "Machizukuri"



プログラム・コーディネーター

大方 潤一郎

■ 所属：大学院工学系研究科都市工学専攻・教授
■ 専門：高齢社会総合研究機構・機構長
■ 専門：都市計画 まちづくり

Program Coordinator

Junichiro Okata

■ Director, Institute of Gerontology Professor, Department of Urban Engineering, Graduate School of Engineering
■ Urban Planning



秋山 弘子

■ 所属：高齢社会総合研究機構・特任教授
■ 専門：老年学

Hiroko Akiyama

■ Project Professor, Institute of Gerontology
■ Gerontology



辻 哲夫

■ 所属：高齢社会総合研究機構・特任教授
■ 専門：在宅医療 ケア政策 社会保障政策

Tetsuo Tsuji

■ Project Professor, Institute of Gerontology
■ Home Medical Care, Care Policy, Social Security Policy



飯島 勝矢

■ 所属：高齢社会総合研究機構・准教授
■ 専門：老年医学 在宅医療 老年学 医学教育

Katsuya Iijima

■ Associate Professor, Institute of Gerontology
■ Geriatric Medicine, Home Medical Care, Gerontology, Medical Education



武川 正吾

■ 所属：大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻・教授
■ 専門：福祉社会学

Shogo Takegawa

■ Professor, Graduate School of Humanities and Sociology
■ Sociology, Social Policy



白波瀬 佐和子

■ 所属：大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻・教授
■ 専門：社会学 (エイジングの社会学、社会階層論、ジェンダーと世代論、家族と社会保障論)

Sawako Shirahase

■ Professor, Graduate School of Humanities and Sociology
■ Sociology (Sociology of Aging, Social Stratification, Gender and Generation, Family and Social Security System)



牧野 篤

■ 所属：大学院教育学研究科総合教育科学専攻・教授
■ 高齢社会総合研究機構・副機構長
■ 専門：社会教育学 生涯学習論
■ HP：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/gs/c3/staff

Atsushi Makino

■ Vice Director, Institute of Gerontology Professor, Department of Integrated Educational Sciences, Graduate School of Education
■ Social Education, Lifelong Learning



東郷 史治

■ 所属：大学院教育学研究科総合教育科学専攻・准教授
■ 専門：教育生理学

Fumiharu Togo

■ Associate Professor, Department of Integrated Educational Sciences, Graduate School of Education
■ Applied Physiology



北村 友人

■ 所属：大学院教育学研究科学校教育高度化専攻・准教授
■ 専門：教育政策研究 国際教育開発論

Yuto Kitamura

■ Associate Professor, Department of Excellence in School Education, Graduate School of Education
■ Educational Policy Research, International Educational Development



加藤 淳子

■ 所属：大学院法学政治学研究所・教授
■ 専門：政治学
■ HP：http://www.katoj.j.u-tokyo.ac.jp

Junko Kato

■ Professor, Graduate Schools for Law and Politics
■ Political Science



樋口 範雄

■ 所属：大学院法学政治学研究所法曹養成専攻・教授
■ 専門：英米法 憲政法 信託法
■ HP：http://www.j.u-tokyo.ac.jp/en/professors/profile/higuchi_n.html

Norio Higuchi

■ Professor, Graduate Schools of Law & Politics
■ Anglo-American Law, Health Law, Law of Trusts



岩村 正彦

■ 所属：大学院法学政治学研究所法曹養成専攻・教授
■ 専門：社会保障法

Masahiko Iwamura

■ Professor, Graduate Schools for Law and Politics, School of Law
■ Social Security



岩本 康志

■ 所属：大学院経済学研究科現代経済専攻・教授
■ 専門：公共経済学
■ HP：http://www.iwamoto.e.u-tokyo.ac.jp/

Yasushi Iwamoto

■ Professor, Department of Studies of Contemporary Economy, Graduate School of Economics
■ Public Economics

教員紹介(プログラム担当者)

Faculty Members (Program Manager)



荒井 良雄

■ 所属：大学院総合文化研究科広域科学専攻・教授
■ 専門：人文地理学

Yoshio Arai

■ Professor, Department of Multi-Disciplinary Sciences,
Graduate School of Arts and Sciences
■ Human Geography



羽藤 英二

■ 所属：大学院工学系研究科社会基盤学専攻・教授
■ 専門：都市計画 交通計画

Eiji Hato

■ Professor, Department of Civil Engineering,
Graduate School of Engineering
■ Urban Planning, Transportation Planning



大月 敏雄

■ 所属：大学院工学系研究科建築学専攻・教授
■ 専門：建築計画 住宅計画

Toshio Otsuki

■ Professor, Department of Architecture,
Graduate School of Engineering
■ Architectural Planning, Housing



中尾 政之

■ 所属：大学院工学系研究科機械工学専攻・教授
■ 専門：生産技術 ナノ転写 失敬学 創造設計
■ HP: <http://hockey.t.u-tokyo.ac.jp>

Masayuki Nakao

■ Professor, Department of Engineering Synthesis,
Graduate School of Engineering
■ Production technology, Nano-replication, Failureology, Creative design



浅間 一

■ 所属：大学院工学系研究科精密工学専攻・教授
■ 専門：サービスロボティクス 移動知 自律分散
■ HP: <http://www.robot.t.u-tokyo.ac.jp/asamab/>

Hajime Asama

■ Professor, Department of Precision Engineering,
Graduate School of Engineering
■ Service Robotics, Mobiligence, Distributed Autonomous Systems



大久保 達也

■ 所属：大学院工学系研究科化学システム工学専攻・教授
■ 総括プロジェクト機構プラチナ社会総括寄付講座・教授(兼務)
■ 専門：プラチナ社会 化学工学 ナノ材料
■ HP: <http://platinum.u-tokyo.ac.jp>

Tatsuya Okubo

■ Professor, Department of Chemical System Engineering,
Graduate School of Engineering
■ Professor, Presidential Endowed Chair for "Platinum Society"
■ Platinum Society, Chemical Engineering, Nanomaterials



田中 敏明

■ 所属：先端科学技術研究センター人間情報工学分野・特任教授
■ 大学院工学系研究科先端工学専攻・兼任
■ 専門：リハビリテーション科学 理学療法学 福祉工学
■ HP: http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/ja/people/staff-tanaka_toshiaki.html

Toshiaki Tanaka

■ Project Professor, Human Information Engineering,
Research Center for Advanced Science and Technology
■ Department of Advanced Interdisciplinary Studies,
Graduate School of Engineering
■ Assistive and Rehabilitation Engineering, Physical Therapy



安永 円理子

■ 所属：大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構・准教授
■ 生物・環境工学専攻 生産・環境生物学専攻・兼任
■ 専門：ポストハーベスト工学
■ HP: <http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/>

Eriko Yasunaga

■ Associate Professor, Institute for Sustainable Agro-ecosystem Service,
Department of Biological and Environmental Engineering,
Graduate School of Agricultural and Life Sciences
■ Postharvest Technology



阿部 啓子

■ 所属：大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻・特任教授
■ 専門：食品科学 味覚科学 遺伝子科学
■ HP: <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/tastescience/>

Keiko Abe

■ Professor, Department of Applied Biological Chemistry,
Graduate School of Agricultural and Life Sciences
■ Food Science, Taste Science, Nutrigenomics



佐藤 隆一郎

■ 所属：大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻・教授
■ 専門：食品生化学
■ HP: <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/food-biochem/>

Ryuichiro Sato

■ Professor, Department of Applied Biological Chemistry,
Graduate School of Agricultural and Life Sciences
■ Food Biochemistry



潮 秀樹

■ 所属：大学院農学生命科学研究科水産生物学専攻・教授
■ 専門：水産化学 食品科学

Hideki Ushio

■ Professor, Department of Aquatic Bioscience,
Graduate School of Agricultural and Life Sciences
■ Marine Biochemistry, Food Science



中嶋 康博

■ 所属：大学院農学生命科学研究科農産・資源経済学専攻・教授
■ 専門：農業経済学 フードシステム論
■ HP: <http://frec.ec.a.u-tokyo.ac.jp/>

Yasuhiro Nakashima

■ Professor, Department of Agricultural and Resource Economics,
Graduate School of Agricultural and Life Sciences
■ Agricultural Economics, Food System



関崎 勉

■ 所属：大学院農学生命科学研究科食の安全研究センター・センター長・教授
■ 獣医学専攻・応用動物科学専攻・兼任
■ 専門：獣医細菌学 食品病原微生物学
■ HP: <http://www.frc.a.u-tokyo.ac.jp/>

Tsutomu Sekizaki

■ Director, Research Center for Food Safety /
Professor,
Departments of Veterinary Medical Sciences and Animal Resource Sciences,
Graduate School of Agricultural and Life Sciences
■ Veterinary Bacteriology, Foodborne Pathogenic Microbiology



橋本 英樹

■ 所属：大学院医学系研究科社会医学専攻・教授
■ 専門：医療経済学 社会学
■ HP: http://webpark1166.sakura.ne.jp/?page_id=45

Hideki Hashimoto

■ Professor, Social Medicine Program,
Graduate School of Medicine
■ Health Economics, Health and Social Behavior

教員紹介(プログラム担当者)

Faculty Members(Program Manager)



秋下 雅弘

■ 所属：大学院医学系研究科生類・発達・加齢医学専攻・教授
 高齢社会総合研究機構・副機構長
 ■ 専門：老年医学

Masahiro Akishita

■ Vice Director, Institute of Gerontology
 Professor, Department of Geriatric Medicine,
 Graduate School of Medicine
 ■ Geriatric Medicine



小川 純人

■ 所属：大学院医学系研究科生類・発達・加齢医学専攻・准教授
 ■ 専門：老年医学

Sumito Ogawa

■ Associate Professor, Department of Geriatric Medicine,
 Graduate School of Medicine
 ■ Geriatric Medicine



本間 之夫

■ 所属：大学院医学系研究科外科学専攻・教授
 ■ 専門：泌尿器外科学
 ■ HP: <http://square.umin.ac.jp/UT-urology/>

Yukio Homma

■ Professor, Department of Urology,
 Graduate School of Medicine
 ■ Urology



芳賀 信彦

■ 所属：大学院医学系研究科外科学専攻・教授
 ■ 専門：リハビリテーション医学
 ■ HP: <http://todaireh.umin.ne.jp/>

Nobuhiko Haga

■ Professor, Department of Rehabilitation Medicine,
 Graduate School of Medicine
 ■ Rehabilitation Medicine



永田 智子

■ 所属：大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻・准教授
 ■ 専門：地域看護学

Satoko Nagata

■ Associate Professor, Division of Health Sciences and Nursing,
 Graduate School of Medicine
 ■ Community Health Nursing



森 武俊

■ 所属：大学院医学系研究科ライフサポート技術開発学(モルテン)
 寄附講座・特任准教授
 ■ 専門：人間機械系 看護工学
 ■ HP: <http://www.lifesupport.m.u-tokyo.ac.jp/>

Taketoshi Mori

■ Project Associate Professor/Endowed Chair,
 Department of Life Support Technology (Molten),
 Graduate School of Medicine
 ■ Robotics, Nursing engineering



堀 洋一

■ 所属：大学院新領域創成科学研究科先端エネルギー工学専攻・教授
 ■ 専門：電気工学 制御工学
 ■ HP: http://hori.k.u-tokyo.ac.jp/index_ja.html

Yoichi Hori

■ Professor, Department of Advanced Energy,
 Graduate School of Frontier Sciences
 ■ Electrical Engineering, Control Engineering



菅野 純夫

■ 所属：大学院新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻・教授
 ■ 専門：ゲノム医科学
 ■ HP: <http://ssmgs.net/lab/>

Sumio Sugano

■ Professor, Department of Medical Sciences,
 Graduate School of Frontier Sciences
 ■ Medical Genomics



加藤 直也

■ 所属：医科学研究所先端ゲノム医学分野・准教授
 大学院新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻・兼任
 ■ 専門：消化器内科学
 ■ HP: <http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/msut/jp/lab/advancedclinicalresearch/>

Naoya Kato

■ Associate Professor, Division of Advanced Genome Medicine, Institute of Medical Science
 Concurrent Post. Medical Genome Sciences,
 Graduate School of Frontier Sciences
 ■ Gastroenterology



鎌田 実

■ 所属：大学院新領域創成科学研究科人間環境工学専攻・教授
 ■ 専門：生活支援工学
 ■ HP: <http://www.sl.t.u-tokyo.ac.jp>

Minoru Kamata

■ Professor, Department of Human
 and Engineered Environmental Studies,
 Graduate School of Frontier Sciences
 ■ Assistive Technology



飛原 英治

■ 所属：大学院新領域創成科学研究科人間環境工学専攻・教授
 ■ 専門：熱工学 冷凍空調工学
 ■ HP: <http://www.hee.k.u-tokyo.ac.jp/>

Eiji Hihara

■ Professor, Department of Human and
 Engineered Environmental Studies,
 Graduate School of Frontier Sciences
 ■ Thermal Engineering, Refrigeration Engineering



大野 秀敏

■ 所属：大学院新領域創成科学研究科社会文化環境工学専攻・教授
 ■ 専門：居住環境設計学
 ■ HP: <http://kingo.arch.t.u-tokyo.ac.jp/ohno/ohno.html>

Hidetoshi Ohno

■ Professor, Department of Socio-Cultural Environmental Studies,
 Graduate School of Frontier Sciences
 ■ Design Theory of Living Environment



檜山 敦

■ 所属：大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻・特任講師
 ■ 専門：複合現実感 ヒューマンインタフェース
 ■ HP: <http://sc.cyber.t.u-tokyo.ac.jp/en/>

Atsushi Hiyama

■ Project Lecturer, Department of Mechano-Informatics,
 Graduate School of Information Science and Technology
 ■ Mixed Reality, Human Computer Interaction

教員紹介(プログラム担当者)

Faculty Members (Program Manager)



Toni Claudette Antonucci

■ 所属：ミシガン大学・副学長
■ 専門：老年学

■ Vice President, University of Michigan
■ Gerontology



David English

■ 所属：ミズーリ大学法科大学院・教授
■ 専門：高齢者法

■ Professor, School of Law, University of Missouri
■ Elder Law, Wills and Trusts



Sarah Harper

■ 所属：オックスフォード大学・教授 / 上級研究員
■ オックスフォード人口高齢化研究所・所長
■ 専門：老年社会学

■ Director, Oxford Institute of Population Ageing
■ Professor of Gerontology and Senior Research Fellow,
■ Nuffield College, Oxford University
■ Social Gerontology



Gyounghae Han

■ 所属：ソウル国立大学・教授
■ 専門：家族学

■ Professor, Division of Consumer Studies and Child and Family Studies,
■ College of Human Ecology, Seoul National University
■ Family Study



Angelique Chan

■ 所属：シンガポール国立大学 / デューク NUS・准教授
■ 専門：社会学

■ Associate Professor, Department of Sociology, National University of
■ Singapore and Duke-NUS Graduate Medical School
■ Sociology



大内 尉義

■ 所属：国家公務員共済組合連合会虎の門病院・院長 東京大学名誉教授
■ 日本老年医学会理事長
■ 専門：老年医学 老年学
■ HP : <https://www.toranomon.gr.jp/>

Yasuyoshi Ouchi

■ President, Federation of National Public Service Personnel
■ Mutual Aid Associations Toranomon Hospital
■ Emeritus Professor, The University of Tokyo
■ President, The Japan Geriatrics Society
■ Geriatric Medicine, Gerontology



永田 久美子

■ 所属：社会福祉法人岩倉会認知症介護研究・研修センター研究部部長
■ 専門：認知症ケア 当事者ネットワーク 地域生活支援 地域支援ネットワーク

Kumiko Nagata

■ Research Director, Dementia Care Research and Training Center
■ Dementia Care, Network of person living with dementia
■ Community Life Support, Community Support Network



太田 秀樹

■ 所属：医療法人アスミス・理事長
■ 専門：高齢者・障がい者医療
■ HP : <http://www5.ocn.ne.jp/~kiboukai/>

Hideki Ota

■ Administrative Director, Medical Corporation A.S.M.ss
■ Orthopaedics, Anesthesiology, Geriatric medicine



秋山 正子

■ 所属：株式会社ケアーズ 日十字訪問看護ステーション・統括所長
■ 専門：地域看護 在宅医療連携 エンド・オブ・ライフケア
■ HP : <http://www.cares-hakujuji.com>

Masako Akiyama

■ CEO, c/o Cares Hakujuji Visiting Nurse Station
■ Community Nursing, Home Care Linkage, End of Life Care



小山 剛

■ 所属：社会福祉法人長岡福祉協会・理事 評議員 執行役員
■ こぶし圏総合施設・施設長
■ 専門：高齢者ケア 地域包括ケアシステム 災害予防 災害時支援
■ HP : <http://www.kobushien.com>

Tsuyoshi Koyama

■ Director / Councilor / Operating officer, Social Welfare Corporation
■ Nagaoka Welfare Association
■ Director, Comprehensive Care Center for the Aged Kobushi-en
■ Geriatric Care, Integrated Community Care System,
■ Disaster prevention, Disaster support



木村 昌平

■ 所属：セコム株式会社・相談役
■ 専門：社会の安全安心の確保
■ HP : <http://www.secom.co.jp/>

Shohei Kimura

■ Senior Advisor, SECOM CO.,LTD.
■ Towards the Establishment of Safety and Security based Society



野呂 順一

■ 所属：株式会社ニッセイ基礎研究所・代表取締役社長
■ 専門：保険数理 年金数理
■ HP : <http://www.nli-research.co.jp/>

Jyunichi Noro

■ President, NLI Research Institute
■ Actuarial Science, Pension Mathematics



濱 隆

■ 所属：大和ハウス工業株式会社・取締役常務執行役員
■ 総合技術研究所・所長 環境エネルギー事業担当
■ 専門：高齢者住宅開発 スマートコミュニティ開発
■ HP : <http://www.daiwahouse.co.jp/>

Takashi Hama

■ Director/Managing Executive Officer
■ Head of Central Research Laboratory,
■ Head of Environment and Energy Business
■ Daiwa House Industry Co.,Ltd
■ Development of Elderly Housing, Smart Community Development



小林 仁

■ 所属：株式会社ベネッセホールディングス・取締役
■ グループ経営企画本部長
■ 専門：教育・介護事業等のグループ経営

Hitoshi Kobayashi

■ Director of Corporate Planning Division, Benesse Holdings, Inc.
■ Group Management of Education and Senior/Nursing Care

教員紹介(プログラム担当者)

Faculty Members (Program Manager)



関根 千佳

Chika Sekine

■ 所属：株式会社ユーディット・会長兼シニアフェロー
同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科・教授
■ 専門：ユニバーサルデザイン 老年学 ITとUDによる地域活性化
■ HP：<http://www.udit.jp/outline/member/csekine>

■ Chairperson / Senior Fellow, UDIT Inc.
■ Professor, Policy and Management, Doshisha University
■ Universal Design, Gerontology and ICT



大熊 由紀子

Yukiko Okuma

■ 所属：国際医療福祉大学大学院・教授
■ 専門：医療福祉ジャーナリズム
■ HP：<http://www.yuki-enishi.com/>

■ Professor,
International University of Health and Welfare Graduate School
■ Journalism on Health and Welfare



南 砂

Masago Minami

■ 所属：読売新聞東京本社編集局総務
■ 専門：医療・医学 科学技術政策 社会保障政策
および社会一般 メディア論

■ The Yomiuri Shimbun
■ Healthcare and Medical Science, Social Policy, Education



河出 卓郎

Takuo Kawade

■ 所属：毎日新聞東京本社企画編集局
東京都健康長寿医療センター・非常勤研究員
■ 専門：社会保障論

■ Journalist
■ Social Security



John Creighton Campbell

John Creighton Campbell

■ 所属：高齢社会総合研究機構・客員研究員
ミシガン大学・名誉教授
■ 専門：老年学

■ Visiting Researcher, Institute of Gerontology
Emeritus Professor, University of Michigan
■ Gerontology



宮島 俊彦

Toshihiko Miyajima

■ 所属：岡山大学・客員教授 日本介護経営学会・理事
■ 専門：高齢者ケアシステム

■ Visiting professor, Okayama University
Director,
The Japanese Association of Business Management for Long-term Care
■ Integrated Care System for Elderly

(*所属・役職は2014年7月1日現在 敬称略 順不同)
(*Affiliation and position as of July 1st, 2014. Titles omitted. Not in particular order.)

若手・気鋭の特任助教群(15名)



後藤 純

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：都市計画 まちづくり 地域包括ケアシステム 総合老年学

Jun Goto

■ Institute of Gerontology
■ City Planning, Community Management, Integrated Community Care System, Gerontology



木全 真理

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：在宅看護

Mari Kimata

■ Institute of Gerontology
■ Home Care Nursing



堤 可奈子

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：都市計画 まちづくり

Kanako Tsutsumi

■ Institute of Gerontology
■ City Planning, Community Management



三浦 貴大

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：福祉工学 ヒューマンインタフェース アクセシビリティ 音響工学
■ HP: <http://www.cyber.t.u-tokyo.ac.jp/~miu/>

Takahiro Miura

■ Institute of Gerontology
■ Assistive Technology, Human Interface, Accessibility, Acoustic engineering



荻野 亮吾

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：社会教育 生涯学習
■ HP: http://researchmap.jp/ryogo_ogino/

Ryogo Ogino

■ Institute of Gerontology
■ Adult and Community Education, Lifelong Learning



孫 輔卿

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：老年医学

Bokyoung Son

■ Institute of Gerontology
■ Geriatric Medicine



室山 良介

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：消化器内科学

Ryosuke Muroyama

■ Institute of Gerontology
■ Gastroenterology



御子柴 直子

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：がん看護 緩和ケア

Naoko Mikoshiba

■ Institute of Gerontology
■ Cancer Nursing, Palliative Care



晁 丁丁

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：システム科学

Dingding Chao

■ Institute of Gerontology
■ Complex Systems



福井 康貴

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：社会学

Yasutaka Fukui

■ Institute of Gerontology
■ Sociology



西上 治

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：行政法

Osamu Nishigami

■ Institute of Gerontology
■ Administrative Law



朴 孝淑

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：労働法

Hyosook Park

■ Institute of Gerontology
■ Labor Law



畑中 綾子

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：民法・医事法

Ryoko Hatanaka

■ Institute of Gerontology
■ Civil Law, Health Law



西野 亜希子

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：建築計画 住宅改修

Akiko Nishino

■ Institute of Gerontology
■ Architectural Planning, Home Modification



橋詰 力

■ 所属：高齢社会総合研究機構
■ 専門：分子生物学 栄養学
■ HP: <http://par.k.itc.u-tokyo.ac.jp/food-biochem/>

Tsutomu Hashidume

■ Institute of Gerontology
■ Molecular Biology, Nutrition Science

(*所属・役職は2014年7月1日現在 敬称略 順不同)
(*Affiliation and position as of July 1st, 2014. Titles omitted. Not in particular order.)

2014年度入学生：修士1年生23名・博士1年生12名



■ 修士課程 Master course

奥山 藍子 (専攻：社会文化研究)
「将来の日本、世界をきつと良いものにできるという信念を持って頑張ります。」
Aiko Okuyama (Department: Socio-Cultural Studies)
"I try to do my best with the unwavering conviction that we can create a better Japan and a better world as a whole in the future."

清水 亮 (専攻：社会文化研究)
「人が『生きがい』を感じられる社会活動について調査研究していきたいです。」
Ryo Shimizu (Department: Socio-Cultural Studies)
"I want to conduct survey research on social activities in which people feel a "life purpose.""

永島 圭一郎 (専攻：社会文化研究)
「フィールドに行っって色々な分野の学生・先生と共同研究するのが楽しみです。」
Keichiro Nagashima (Department: Socio-Cultural Studies)
"I look forward to conducting and implementing joint research with faculty and students with various background when going into the field."

名川 航太郎 (専攻：社会文化研究)
「高齢者の労働参加・社会参加について研究したいと考えております。」
Kohtarō Nagawa (Department: Socio-Cultural Studies)
"I'd like to conduct research on job opportunities and social participation among the elderly."

妻山 亮太 (専攻：社会文化研究)
「学際的視点で超高齢社会の就労・社会参加・格差をめぐる問題に取り組みたい。」
Ryota Mugiyama (Department: Socio-Cultural Studies)
"I'd like to address the issues of job opportunities and social participation as well as the widening disparity regarding super aging societies from an interdisciplinary perspective."

森 健 (専攻：社会文化研究)
「自分が高齢者になったとき楽しく暮らせる社会を目指してがんばります！」
Takeshi Mori (Department: Socio-Cultural Studies)
"I will strive to pursue the goal of building a society where we can all live happily by the time I am elderly."

張 惠媛 (専攻：社会文化研究)
「高齢社会の問題を解決すべく、ジェロントロジーを研鑽します。」
Jang Hyewon (Department: Socio-Cultural Studies)
"I aim to study Gerontology to solve various issues regarding aged-societies."

付 雨菲 (専攻：総合教育科学)
「超高齢社会における多世代協働を実現するために、自分ができることを考える。」
Fu Yufei (Department: Integrated Educational Sciences)
"I want to consider what I can do to realize cross-generational collaborations in super aging societies."

佐藤 浩 (専攻：総合教育科学)
「グズグズできない。ラフな素描や発想でも、フル回転の頭と心で、スグ行動を！」
Hiroshi Sato (Department: Integrated Educational Sciences)
"There is no time to waste. We must take action with rough sketches and ideas, and kick our hearts and minds into high gear."

長木 美緒 (専攻：建築学)
「専門による各々の視点の違いを楽しみながら、諸問題の解決法を探りたいです。」
Mio Choki (Department: Architecture)
"I want to explore solutions for various issues while enjoying different expert perspectives."

浜田 麻里奈 (専攻：都市工)
「分野横断した研究を通して、自分の分野に新しい研究フィールドを拓く！」
Marina Hamada (Department: Urban Engineering)
"I want to explore new research fields in my area of interest through cross-sectional research methods."

吉田 真悟 (専攻：農業・資源経済学)
「農業界は高齢社会のフロンティアです。ここから社会に革新を起こします！」
Shingo Yoshida (Department: Biomaterial Sciences)
"The farming industry is a frontier in aging societies. I want to revolutionize the world from here."

藤井 文音 (専攻：健康科学・看護学)
「高齢者が生き生きと過ごせる社会構築を目指し、必要な知識を身に付けたい。」
Fumika Fujii (Department: Health Sciences and Nursing)
"I want to learn the skills and knowledge necessary to develop a society where the elderly can live and work with vigor and enthusiasm."

松本 陽成 (専攻：健康科学・看護学)
「地域の物理的環境や住居環境にアプローチできる地域看護の新しい手札を作る。」
Hiroshige Matsumoto (Department: Health Sciences and Nursing)
"I want to create a new approach to community nursing for both physical and home environments."

前田 史雄 (専攻：メディカルゲノム)
「高齢者が安全安心に暮らせる社会を研究します。」
Fumio Maeda (Department: Medical Genome Sciences)
"I'd like to conduct research on a society where the elderly can live at ease and in security."

有田 祥馬 (専攻：知能機械情報学)
「高齢社会が深刻ですがそれをチャンスによりよい働き方を模索していきます。」
Shoma Arita (Department: Mechano-Informatics)
"Although the issues regarding aging societies are serious, I want to look at them as an opportunity to seek more effective ways of working."

内山 瑛美子 (専攻：知能機械情報学)
「みんなが生きやすい・過ごしやすい社会を作る研究ができると嬉しいです！」
Emiko Uchiyama (Department: Mechano-Informatics)
"I am happy to be able to conduct research to create a society where everyone can feel and live at ease."

小嶋 泰平 (専攻：知能機械情報学)
「なかなか授業はハードですが、今後有意義な研究ができることを期待しています。」
Taihei Kojima (Department: Mechano-Informatics)
"The lectures are pretty tough, but I look forward to conducting positive and productive research from now on."

鈴木 智絵 (専攻：知能機械情報学)
「様々な分野の人と同じ目標へ挑戦する中で、様々な視点や知識に触れられます。」
Chie Suzuki (Department: Mechano-Informatics)
"We can acquire a variety of knowledge and different perspectives by working toward the same goal with people in various fields."

黄 銀鐘 (専攻：社会文化研究)
「何歳になっても自らの未来に希望が持てるように高齢社会のイメージを変えたい。」
Hwang Eunji (Department: Socio-Cultural Studies)
"I want to be able to change the image of aging societies so that people have hope for the future at any age."

■ 博士課程 Doctoral course

小南 友里 (専攻：水圏生物科学)
「超高齢社会に貢献できるように頑張りたいと思います。」
Yuri Kominami (Department: Aquatic Bioscience)
"I wish to make a solid contribution to super-aging societies."

高瀬 麻以 (専攻：水圏生物科学)
「最新の介護を通して高齢者の食事に興味を持ちました。勉強、頑張ります。」
Mai Takase (Department: Aquatic Bioscience)
"I took a great interest in diets for the elderly through personal experience of nursing my family."

土屋 瑠見子 (専攻：健康科学・看護学)
「他の分野の考えや調査方法を学び共同研究ができるようになりたいと思います。」
Rumiko Tsuchiya (Department: Health Sciences and Nursing)
"I wish further collaboration of research by learning different ways of thinking and research methods in various fields."

安藤 絵美子 (専攻：健康科学・看護学)
「多分野の方と協働する力を育み、よりよい社会を作る人材となるべく頑張ります。」
Emiko Ando (Department: Health Sciences and Nursing)
"I want to become a human resource who can collaborate with people in different fields and who can build a better society."

岡田 宏子 (専攻：健康科学・看護学)
「高齢者を含む全ての人が々が希望する場所で自分の望む生活ができる街を造りたい。」
Hiroko Okada (Department: Health Sciences and Nursing)
"I wish to engage in town development where all people, including the elderly, are able to live the way they want."

目 麻里子 (専攻：健康科学・看護学)
「超高齢社会が希望に溢れる社会になるよう、研究に取り組みたいと思います。」
Mariko Sakka (Department: Health Sciences and Nursing)
"I want to approach research which will fill super-aging societies with hope."

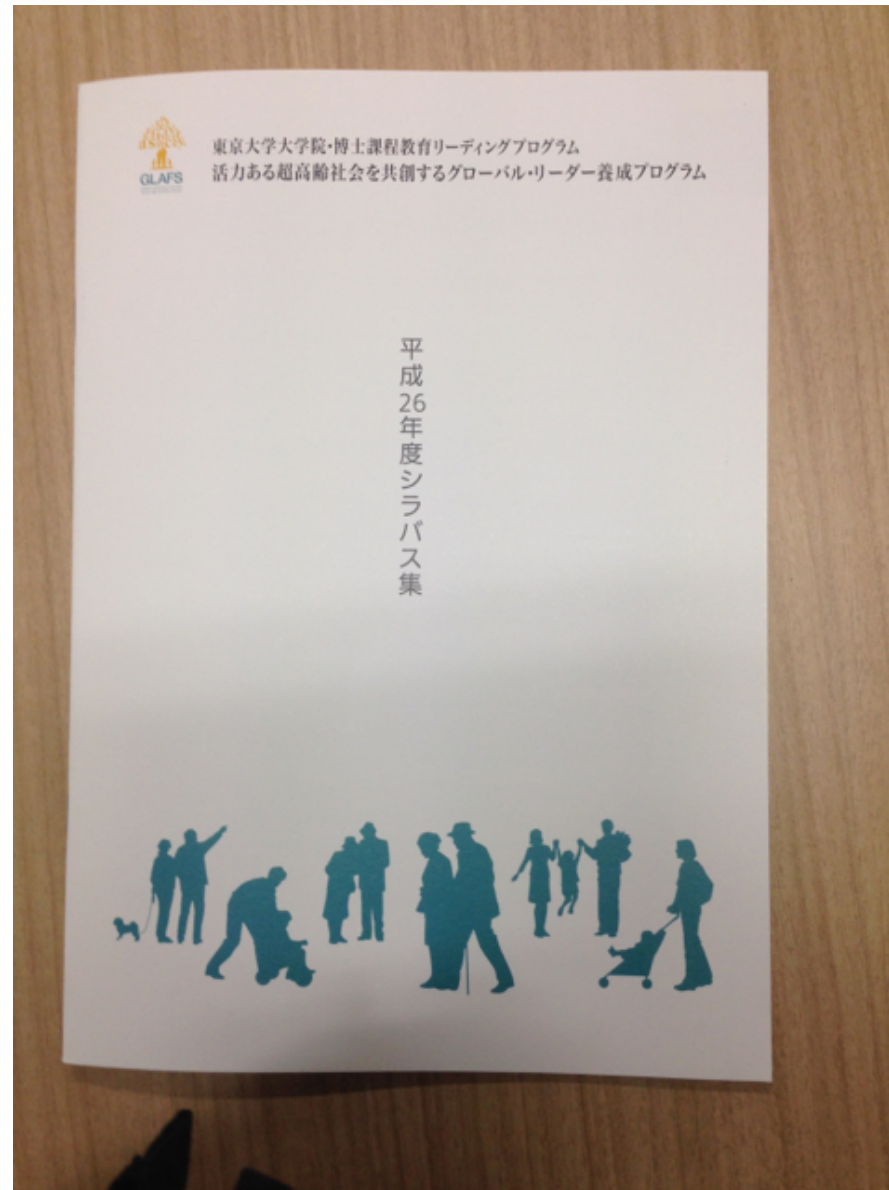
長谷田 真帆 (専攻：社会医学)
「様々な分野の方と共に学び成長し、社会に貢献できる人材になる事を目指します。」
Maho Haseda (Department: Social Medicine)
"I want to become a person who can learn, collaborate with people in other fields, and contribute to society."

落合 里美 (専攻：メディカルゲノム)
「分野横断的なで、専門分野以外の人と話し合い、知識を深めていきたいです。」
Satomi Ochiai (Department: Medical Genome Sciences)
"I wish to collaborate with people and deepen my expertise in different fields because GLAFS is a collaborative and inter-disciplinary program."

小林 亮介 (専攻：メディカルゲノム)
「私の専門は感染症です。高齢者と感染症の課題を GLAFS で学びたいです。」
Ryosuke Kobayashi (Department: Medical Genome Sciences)
"My major is infectious diseases. I want to study issues related to infection for the elderly."

三木 康平 (専攻：知能機械情報学)
「高齢社会を工学の立場から支えることができる研究者を目指したい。」
Kohsuke Yamamoto (Department: Mechano-Informatics)
"I want to become a researcher who can support the aged society from the perspective of engineering science."

4. カリキュラム



カリキュラムの基本構成

プログラムの修了要件：博士課程修了までに、所属専攻での卒業要件を満たすと同時に、GLAFS共通科目群の中から、講義10単位以上の履修および毎学期の演習の履修が必要

【講義：高齢社会総合研究学】 必修の概論2科目と以下の5分野に関する特論（選択必修）で構成

- 高齢社会のケア・サポート・システム
- 高齢社会の法と制度
- 高齢社会の社会システム
- 高齢社会の住まいとまちづくり
- ジェロンテクノロジー：高齢者のニーズに応えるテクノロジーとライフサポート・システム
- その他・今年度は15科目の講義（選択）を開講

【演習：毎学期1単位】

1) フィールド演習：分野横断的チームで現実の課題解決に取り組むフィールド演習（F演習）

- F1: 分野横断的チームを組んで地域社会の現実の課題に取り組むコミュニティ・アクション（地域連携）型演習
- F2: 企業等の現場で先端的課題に取り組むインターンシップ（産学連携）型演習
- F3: 多様な高齢者や市民に寄り添い心を通わせるケア・システム（対人ケア）実習

2) グローバル演習：グローバル・リーダーシップ能力育成のための科目

- G演習：「英語によるコミュニケーションとプレゼンテーション」（入学1年目のみ）
- 海外短期留学制度
- 国際共同ワークショップ/外国人研究者等による特別講義・セミナー/国際シンポジウム（随時）
- 国際学会等発表旅費・国際調査等支援旅費の支給

3) コアセミナー

- 分野横断的研究指導：他分野の教員やインストラクター、学生等による分野横断的なディスカッションの場を通じて学際的な研究指導の体制を確保
- 高齢社会への取組の第一線で活躍する専門家を招聘して行う対話型ケーススタディ

5. 魅力ある学修研究環境

- 学業成績・能力評価・研究計画・研究実績の評価に応じた3段階(S,A,B)の奨励金の給付。
- 学生が主体的に独創的な研究を計画・実践するための若手支援研究費の配分(研究計画の評価により査定)。
- フィールド演習(F演習)において、多分野の専門家や学生がチームを組んで課題解決に取り組む活動の醍醐味(シナジー効果、目が開かれる思い)を実体験させ、また社会実験型の研究活動の手応え(提案が実社会に具現化されることの手応え)を実体験させること。
- 多くの専攻等に分属する学生・指導教員陣が、自身の専門分野だけでなく、広範な関係分野の文献・資料・データ等にたやすくアクセスでき、また、日常的な議論を深めるための談話・相談・交流スペースともなる「交流ライブラリースペース」を設置する。このスペースには、地理情報・空間情報等の画像データや動画データの処理・加工・表示等についても十分な性能を有するICT機器を必要数配備し、研究成果等のプレゼンテーションやディスカッションが効果的・効率的に行えるプレゼンテーション・ルームも設置する。
- 所属専攻の教員だけでなく、多様な分野の教員や学生とディスカッションするコアセミナーへの参加と毎学期の公開研究発表会における発表の義務づけ。
- 国際学会における研究発表の義務づけ、国際学会等発表旅費の支給。
- 海外短期留学を標準履修コースに組み込み、海外短期留学旅費を支給。

演習室(遠隔講義システム付)の整備



コアセミナーの状況



交流ライブラリの整備

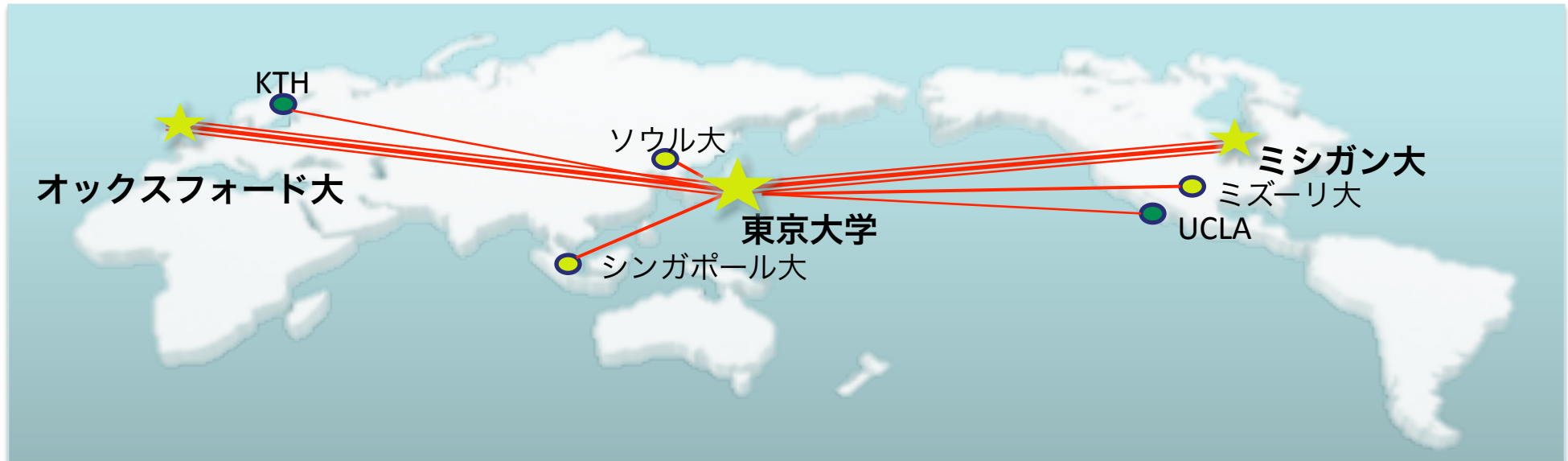


グループ共同研究の状況



6. グローバルに活躍するリーダーを養成する体制

- 高齢社会総合研究に関する世界トップの教育研究拠点を形成し、アジア(東京大学)、北米(ミシガン大)、EU(オックスフォード大)の3極の拠点による世界連携体制を構築する



■ 海外短期留学制度

原則として全学生を第3年次(医学系等4年制博士課程にあっては第2年次)の夏休み(8月)から冬学期の間、6ヶ月以内の海外短期留学に派遣する。海外短期留学については海外短期留学旅費を支給する。

- **ミシガン大学**: 1学年30人の博士後期課程学生のうち20人がミシガン大学においてジェロントロジー・コースを1学期間履修することを想定: ミシガン大学には本プログラムの海外連絡オフィスを開設しスタッフを常駐させる
- **ミズーリ大学**: 主に高齢社会問題について法学分野の研究を遂行する学生を想定
- **オックスフォード大学**: 海外企業等でのインターンシップ型留学や、自身の専門分野に強い大学への留学を希望する学生については、予備的留学先としてジェロントロジー・サマースクールに派遣
- **アジア地域**における高齢社会問題を研究したい学生のためにはシンガポール大学、ソウル大等と連携
- その他: 上記に限らず、学生は、博士研究のテーマに適した留学先に留学することができる。
- 海外短期留学には、大学への留学だけではなく、海外の企業等におけるインターンシップ型留学を含む。

7.産官学民連携による フィールド演習の例 として

これまでのIOGの活動

- 東大IOG-柏市-UR都市機構の共同事業(2009年度～)
- 柏市豊四季台地域をフィールドにした超高齢社会対応のモデル地域開発

目標⇒「Aging in Place」コミュニティの実現
超高齢社会対応コミュニティ環境の3要素に応じた3つのサブプロジェクト



い(医) ケア・サポート・システム

多分野多職種連携の包括的ケアシステム
【医】次世代地域包括ケアシステム

しよく(食/職) ソーシャル・サポート・システム

住民主導の地域交流・社会参加の場づくり
【職】生きがい就業・起業の活動

引きこもらず人と集い楽しむコミュニティ
【住】コミュニティスペース豊かな
歩いて暮らせるまちづくり

じゅう(住) 空間的サポート・システム

【医】多分野多職種連携地域包括ケアシステムの構築

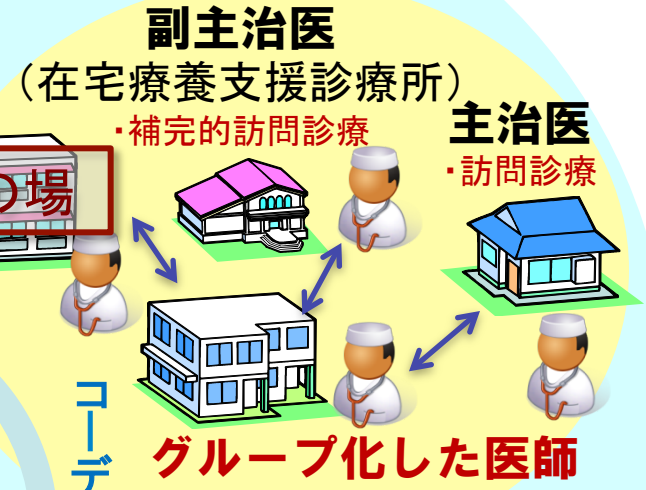
い: ケアサポート

柏市における在宅医療を推進する6つの事業

事業⑤ 在宅医療の啓発

東大柏キャンパス
 ・教育研修企画・運営
 ・主治医・副主治医モデル等の実証研究

事業② 在宅医療研修システム



F1: コミュニティアクション演習の場

事業① 地域医療拠点の整備

- ・主治医・副主治医・看護・介護サービスの調整
- ・多職種が集う場
- ・情報システム運営管理
- ・研修スペース
- ・市民相談・啓発スペース

事業③ 情報共有システム



住まい
 戸建・UR賃貸・民間分譲住宅等



相談・啓発

訪問診療・在宅ケアの提供

訪問看護

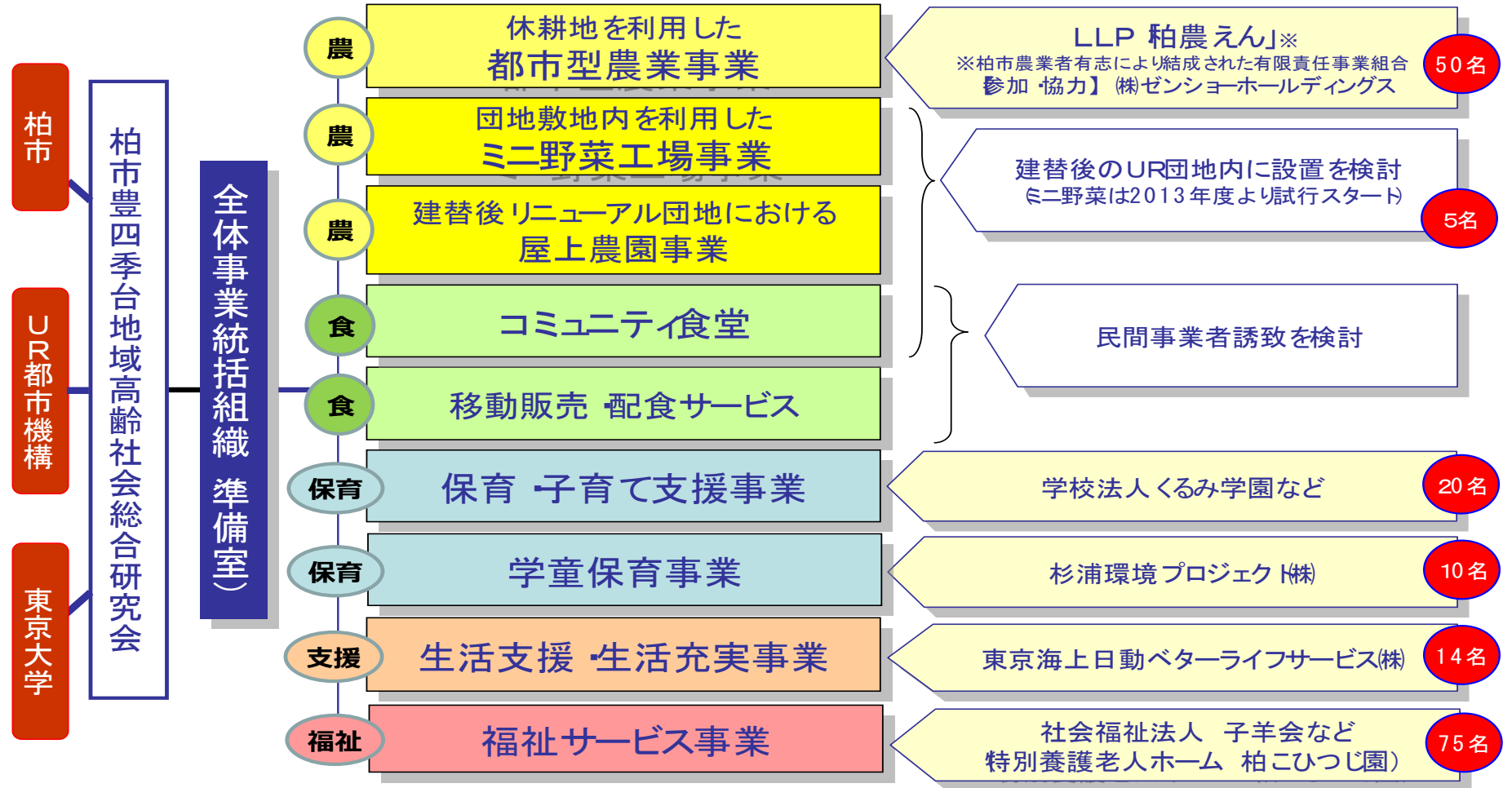
事業⑥ サービス付き高齢者住宅の建設

F2: ケアシステム実習の場として

事業④ 在宅医療試行モデルの実施

食/職: ソーシャル・サポート

4領域6事業を開拓。のべ174名の生きがい就業者の雇用を実現！
 (屋上農園と食事業は事業構想を策定。2014年度事業開始予定)



～様々な新たなコミュニティ・ビジネスの場で活躍するシニア世代～



被災地における仮設・復興まちづくり支援活動

(い・しょく・じゅう)総合的コミュニティ環境改善プログラム



大槌町庁内に仮設住宅特別PTを設置し東大IOGと連携して環境改善を推進



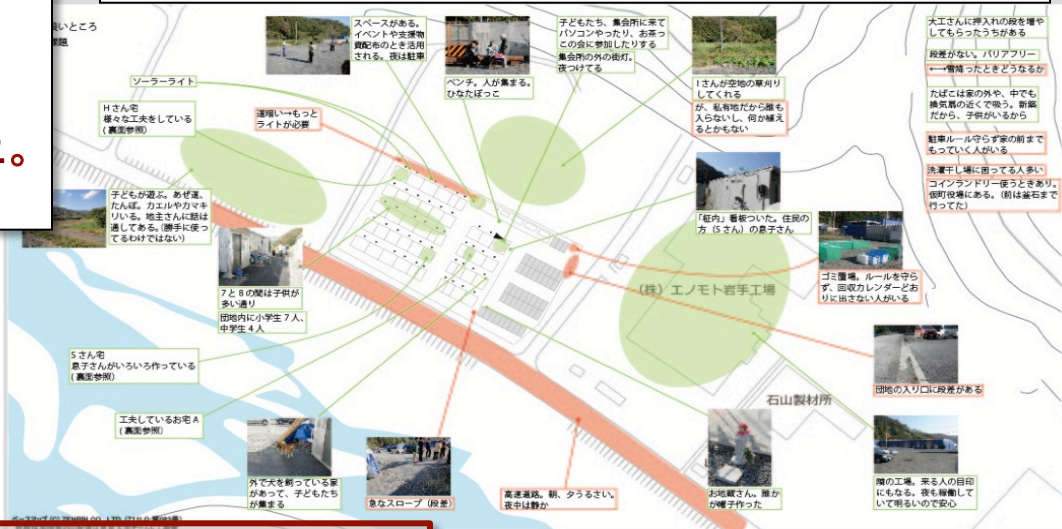
43仮設団地自治会の代表者会議を設置、住民と協働で環境改善を推進



- 住民自身による住環境点検活動:住環境について住民が問題を共有し改善策を話し合うことからコミュニティの交流が始まる。
- 重要な課題は行政に改善を要請。住民自助・共助で改善できることについては改善手法をわれわれ専門家が提案→「仮設住宅住みこなし通信」(月刊)を全戸配布。
- 住民交流・住民活動促進のための交流会を開催。居住環境問題だけでなく社会的環境・共助的ケア体制についても改善。
- コミュニティの社会的交流度と住民のQoLを測る調査、健康づくり活動の展開、コミュニティビジネス展開への支援。

岩手県大槌町では、医学・工学・社会学分野の学生・教員が分野横断的チームを組んで、自治体・住民と協働で、超高齢社会を包摂するコミュニティの社会的・空間的環境の改善に取り組んでいます。

学生の研究モチベーション・他分野についての理解・チームワーク能力が高まり、学生の力が飛躍的に向上。(現在D3の学生はこの成果により総長大賞を受賞)



F1:コミュニティアクション演習の場として

住環境点検マップの例

Ⅲ 産学連携活動：ジェロントロジー・ネットワーク(62社参加)による活動

F3: インターンシップ型共同研究の場として活用

現在8つの共同研究チームが活動中。来年度に向けて研究チームを倍増することを計画中。

WG2

「ジェロントロジー住宅」グループ

WG3

「未来の移動・交通システム」グループ

WG4

「ICT×シニア×まちづくり」グループ

WG8

「高齢者の生活ニーズ・ライフデザイン」グループ

8A

ジェロントロジー情報共有・啓発グループ

8B

団塊世代のライフデザイン研究グループ

8C

シニアと家族のニーズ顕在化研究グループ

8D

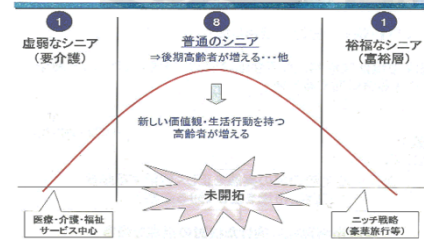
女性のライフデザイン研究グループ

8E

高齢者の就労関連事業創造グループ



2. 高齢者市場の捉え方⇒1:8:1



ジェロントロジー・ネットワーク参加企業一覧(2013/3)

No.	業界区分	参加企業名	No.	業界区分	参加企業名
1	自動車 機械メーカー	(株)ジェイテクト	32	建築 不動産 住空間	(株)荒井商店(アライブメディケア)
2		スズキ(株)	33		大和ハウス工業(株)
3		トヨタ自動車(株)	34		(株)ミサワホーム総合研究所
4		日産自動車(株)	35		三井不動産(株)
5		八千代工業(株)	36		(株)LXL
6		ヤマハ発動機(株)	37		事務機器 家具
7	電機 精密機器メーカー	沖電気(株)	38	IT 情報通信	(株)NTTドコモ
8		GEヘルスケア・ジャパン(株)	39		大日本印刷(株)
9		シーメンス・ジャパン(株)	40		富士ソフト(株)
10		日本電気(株)	41	運輸	東京急行電鉄(株)
11		パナソニック(株)	42	素材	新生紙パルプ商事(株)
12		(株)日立製作所	43		(株)地球快適化インスティテュート三菱ケミカルHG)
13		富士フィルム(株)	44		デュポン(株)
14		(株)リコー	45	金融	西武信用金庫
15	味の素(株)	46	野村證券(株)		
16	江崎グリコ(株)	47	(株)みずほ銀行		
17	MSD(株)	48	医療 福祉機関	(株)フレアス	
18	花王(株)	49		ヘルスケアパートナーズ(株)	
19	サンスター(株)	50	マーケティング・コンサルティング他	イーソリューションズ(株)	
20	サントリー食品インターナショナル(株)	51		コンパツク税理士法人 東京事務所	
21	サントリービア&スピリッツ(株)	52		(株)積水インテグレートリサーチ	
22	(株)資生堂	53		(株)TMJ	
23	(株)ニチレイフーズ	54		(株)ファンケルスタッフ	
24	ネスレ日本(株)	55		(株)富士通総研	
25	ハウス食品(株)	56		(株)メディシンク	
26	ユニ・チャーム(株)	57		(株)ユーディット	
27	ライオン(株)	58		(株)リサーチ・アンド・ディベロプメント	
28	アンファー(株)	59		(株)コンボン研究所	
29	日本ハム(株)	60	寄付/支援企業	UR都市機構	
30	(株)ゼンショー	61		(株)セコム	
31	三井物産(株)	62		日本生命保険相互会社/(株)ニッセイ基礎研究所	

※青字 2011年度より参加 (6社)、赤字 2012年度より参加 (2社)

順不同 計62社)

8. GLAFS演習の概要

今年度のフィールド演習の 進行状況

GLAFSコースの「演習」(必修・毎週土曜日)の構成

1. フィールド演習(土曜・午後他随時)

- F1: 分野横断的チームを組んで地域社会の現実の課題に取り組むコミュニティ・アクション(地域連携)型演習---- グループ共同研究
- F2: 企業等の現場で先端的課題に取り組むインターンシップ(産学連携)型演習
- F3: 多様な高齢者や市民に寄り添い心を通わせるケア・システム(対人ケア)実習

2. グローバル演習

- G1: 「英語によるコミュニケーションとプレゼンテーション」(土曜・午前)
+ 海外短期留学制度(D1の夏～冬)
+ 国際セミナー、国際ワークショップ、国際スタジオ(随時)

3. コアセミナー(土曜・午後)

- CS1: 修論・博論の研究に関し、他分野の教員やインストラクター、学生等による分野横断的なディスカッションの場を確保し、専攻での専門的研究が、現実の高齢社会問題の解決に資するものとなるよう、視野を拡げ発想を深める
- CS2: ケーススタディ: 医療・看護・介護や、まちづくり、新たな高齢者ビジネスなどの様々な現場で活動されている第一人者の方をお招きし、お話しをうかがい、ディスカッションし、高齢社会問題に関する実社会の要請を理解し、課題に取り組む現場の空気を肌で感じる

今年度のF1演習(地域連携型グループ共同研究)のテーマ群

- ① 高齢者の終末期の意志決定の問題(相談員養成マニュアルを題材に)
- ② 在宅介護で暮らし続けられる条件を探る: 柏市・特養入居待機者のアンケート調査を通じて
- ③ 弱らない・弱っても暮らし続けられる住まいとコミュニティの住環境
- ④ 柏・豊四季台地区等における総合的コミュニティサポート活動の展開
ケアサポート(健康づくり活動)+生涯学習活動+コミュニティ活動とコミュニティビジネスのプロモーション+コミュニティスペースの提案・実装・運用
- ⑤ 空洞化する郊外住宅地内の空地の菜園的利用・農業的利用や限界集落地域のセカンドハウス型菜園付住宅開発を考える
- ⑥ 高齢者の食生活実態調査から高齢者の食の問題構造を明らかにする
+ 人の心身の健康度や居住環境の「高齢社会対応度」など、指標(群)の問題に関する輪講(学生による自主勉強会)

フィールド演習・コアセミナーの様子



講義・演習風景



GLAFS合宿@湯河原



高齢者体験

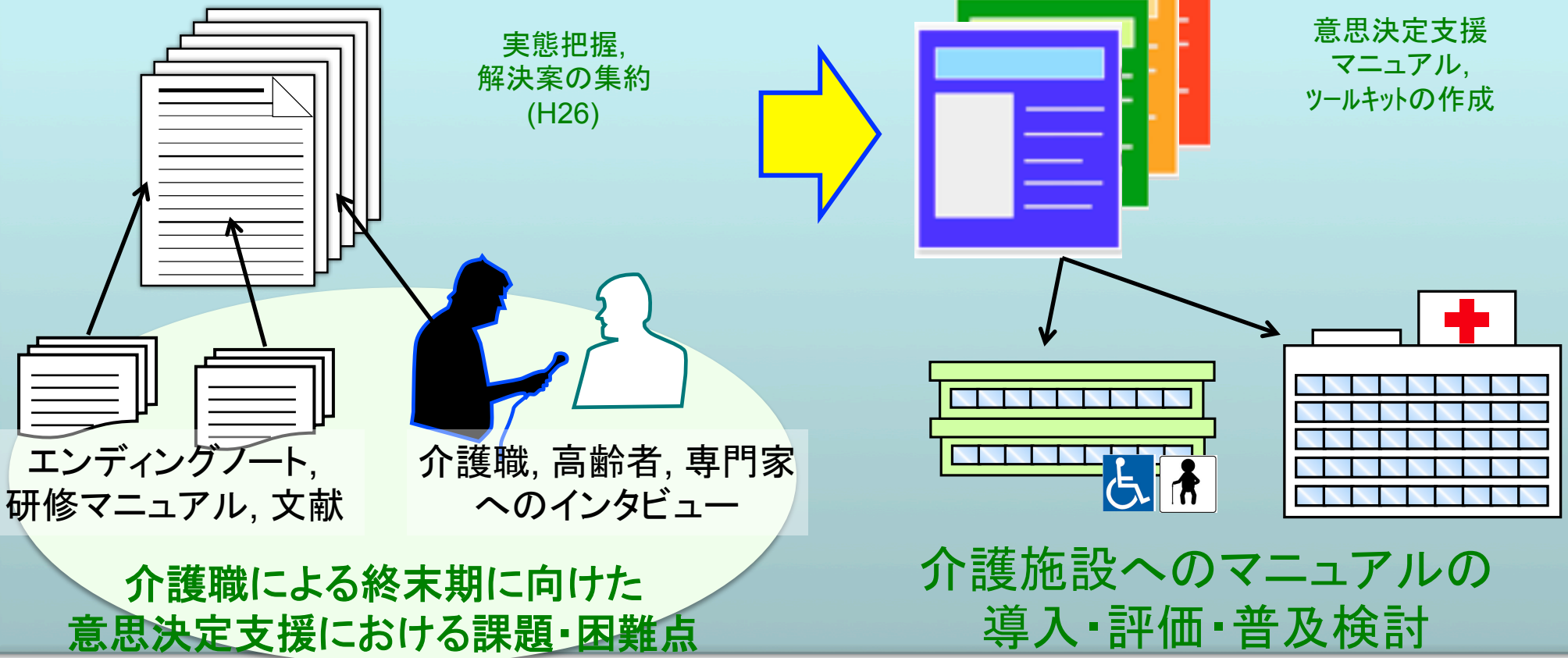


大槌町コミュニティ居住環境点検

①:高齢者の終末期に向けた意思決定支援方法の検討

目的:介護施設で働く介護職のための、
終末期意思決定支援マニュアルの作成

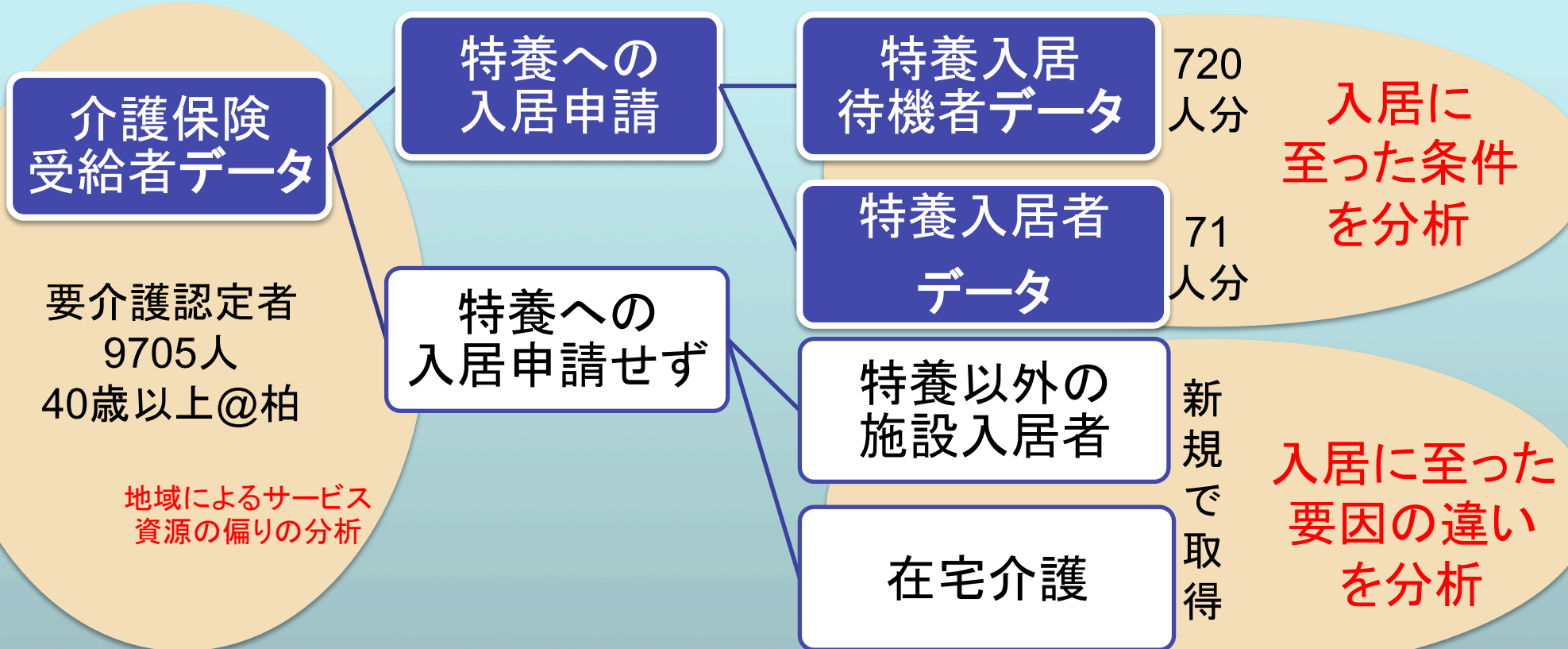
アプローチ:



② 在宅介護で暮らし続けるために

目的: 介護サービス選択の規定要因を明らかにし、
在宅医療整備における基礎資料を提示

アプローチ: 様々なデータを多変量解析などで分析

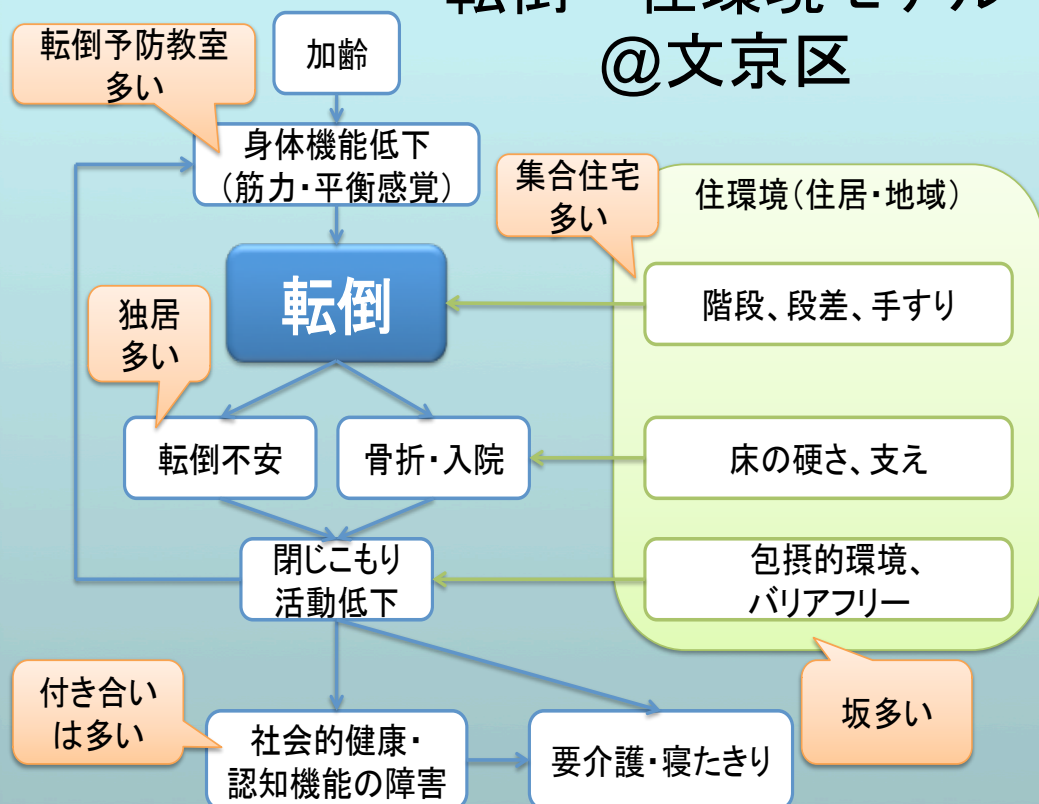


③「弱っても住み続けられる」住環境

目的：転倒などを予防できる住宅・地域環境を明らかにする

アプローチ：

転倒—住環境モデル @文京区



□ 目的：安全住宅要件の探索

□ 方法

1. 「転倒アンケート」データを整理
2. 先行研究レビュー (医学系×建築系)
3. 訪問調査 (アンケート回答者+東大病院受療者)
 - ・ 空間, 身体状況, 転倒時の状況
4. 調査結果分析

住宅

地域

□ 目的：交流促進要件の探索

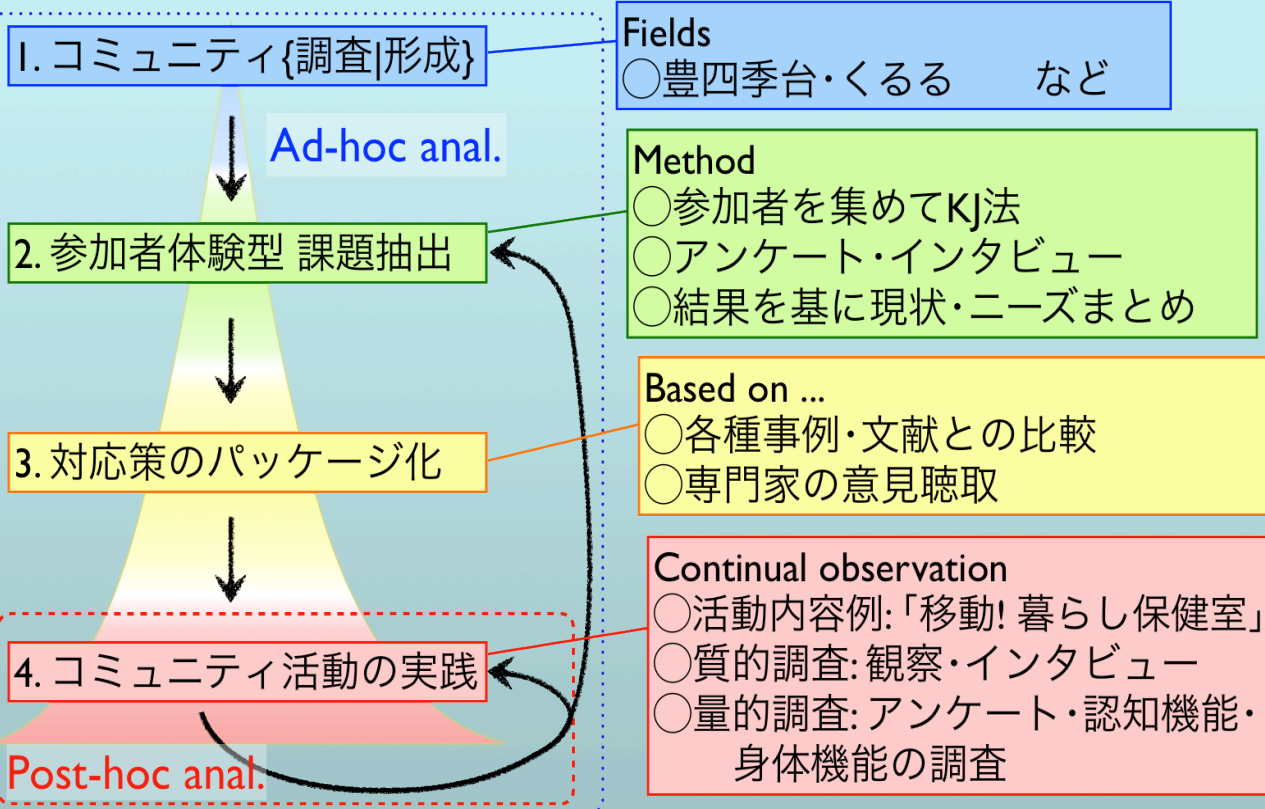
□ 方法

1. 行政インタビュー
2. 現場調査：コミュニティ形成過程 (2,3か所×3グループ)
3. 研究仮説の立案

④ 総合的コミュニティサポート活動@豊四季台

目的: コミュニティ活性化のための方法論を,
他地域などでも適用できるようパッケージ化

アプローチ:



「移動!暮らし保健室」の パッケージ化における課題

- 高齢者が気に留める健康指標の調査
- 行動を誘発しやすいフィードバック方法の考案
- 日常的な運動状況の測定方法

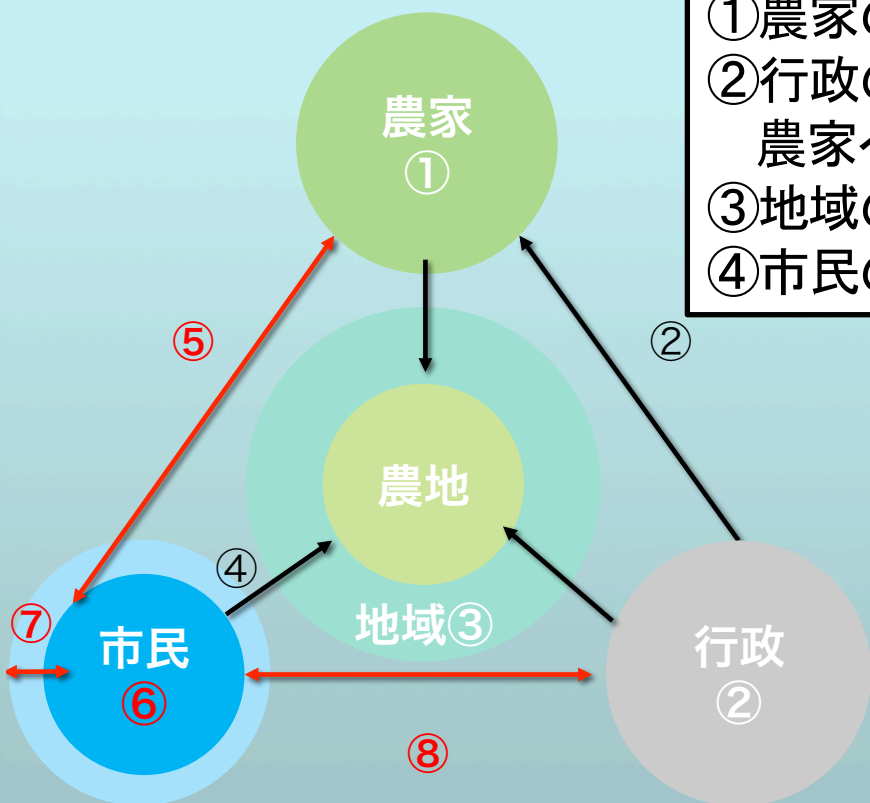
パッケージの汎用性を 高めるための課題

- 高齢者自身による定期的な健康教室の開催の誘導方法
- 他のコミュニティ活動へ組み込めるパッケージ設計

⑤ 都市部における高齢期の農ある暮らし

目的: 1) 郊外住宅地・限界集落の空地の菜園的・農業的利用の実態調査・促進方策検討, 2) セカンドライフ向け菜園付き住宅開発の構想

アプローチ:



<研究が進んでいる領域>

- ① 農家の経営実態
- ② 行政の視点及び農家への働きかけ
- ③ 地域の農業
- ④ 市民の農業への意識

<研究が不足している領域>

- ⑤ 農家と市民の相互理解
- ⑥ 市民のライフスタイルと農業
- ⑦ 農を通じた市民交流・コミュニティ形成
- ⑧ 行政と市民の連携

東京近郊のケーススタディを実施



菜園付きコーポラティブ住宅
さくらガーデン



笠間クラインガルテン

...

⑥ 高齢者の食と栄養

目的：多分野の独立した知見をまとめ、高齢者の食と栄養の現状を包括的に捉える

アプローチ：各視点における重要項目，視点間の相違を集約し，多分野連携の上での課題を整理

企業



- 食品開発の着眼点,
- 現在の発想に至った経緯,
- 提供サービス,
- 将来の変動に向けての対応

栄養士



栄養面における注意・関心
栄養の管理・調理法の工夫
価格における理想と現実

高齢者

提供される食事に関する本音



施設入居者，
在宅介護対象者



介護者

介護用食品の状況など



高齢者施設の勤務者，
ホームヘルパー，
在宅介護をする家族

GLAFS コース生・募集中

- ・第1次募集:2014年10月20日応募〆切
- ・第2次募集:2015年 2月を予定

詳細はホームページでご案内いたします。

<http://www.glafs.u-tokyo.ac.jp>